

# ◎ はまなか

# 議会だより

NO.144

令和5年4月15日発行



## 3月定例会

予算	地域おこし協力隊増員の考えは	4P~8P
議	委員会レポート (社会文教常任委員会)	9P
	議会報告と町民との意見交換会	10P
一	3人の議員が町政を問う	11P~13P
頁	瑞色鮮 (福澤 孝哉 さん)	14P

茶内小学校の卒業式が3月17日に行われ、18人の卒業生が6年間学んだ校舎に別れを告げました。4月からは中学生。学びの多い充実した3年間になることを期待しています。

表紙の写真

# 具現化される防災事業 津波避難施設整備工事を実施

**3月  
定例会  
8日～14日**

## 千島海溝沿いの巨大地震・ 津波対策事業を今年度より実施

①丸山散布人工高台造成工事を2力年で実施するもので総事業費4億3324万円。

・令和5年度の工事内容  
液状化対策・取付道路など  
事業費2億4048万円  
・令和6年度の工事内容  
盛土・排水構造物・護岸  
工事とアスファルト舗装工事など  
事業費1億9276万円

②霧多布高等学校屋外避難階段を整備するもので事業費6100万円。

工事内容は、3階のバルコニーに階段設置と屋上に転落防止柵など



避難施設となる霧多布高校

③津波避難タワーの基本設計委託をするもので事業費4111万円。

④津波救命艇を購入するもので事業費1782万円。

調査内容は、津波避難タワー建設場所4箇所地質調査など

令和5年第1回定例会が3月8日から、7日間（休会2日含む）の日程で開かれました。町長から町政執行方針、教育長から教育行政執行方針が示され予算審議など活発な議論が展開されました。

今定例会には、令和4年度の補正予算をはじめ令和5年度当初予算および条例制定など30議案が上程され、いずれも原案どおり可決しました。

また、一般質問は3人の議員が登壇しました。

FRP製25人乗り一艇を霧多布クリーンセンター近隣に設置

## 総合文化センター 改修工事を 2力年で実施

建設から35年が経過し、老朽化が進んでいることから今年度より実施するもので総事業費11億6005万6千円。

・令和5年度の工事内容  
屋上防水・外壁改修など  
事業費6億1645万円

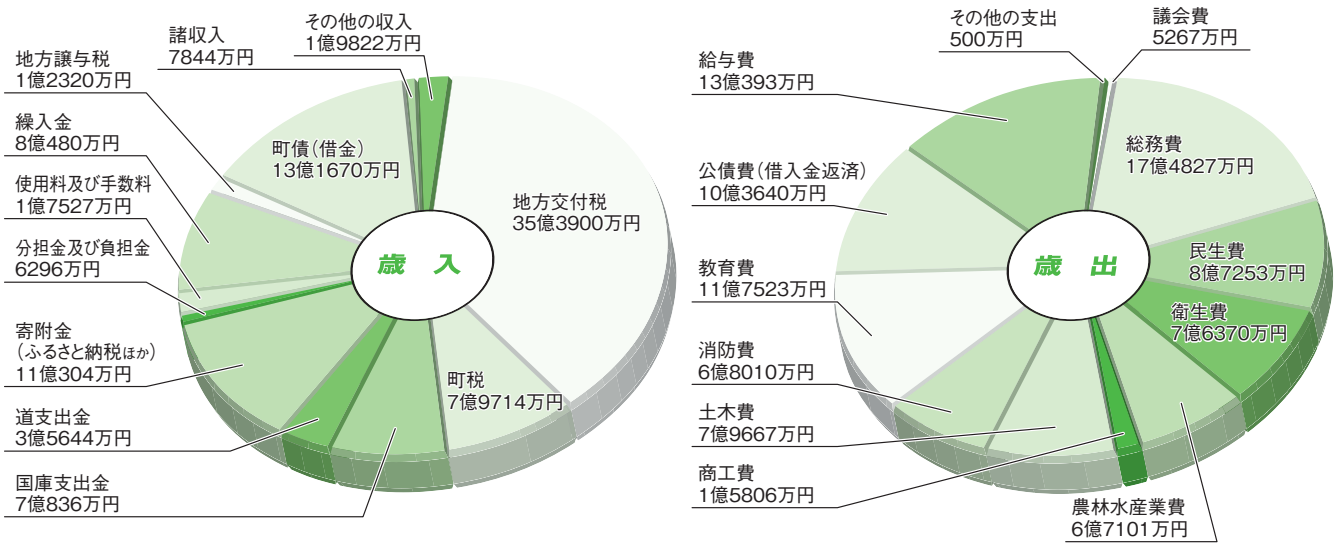
・令和6年度の工事内容  
内部改修（床・壁・天井）  
電気・機械設備改修など  
事業費5億8214万円

# 予算の概要

## 令和5年度 一般会計予算

# 総額92億6357万円に

### 一般会計予算の内訳



### 各会計の当初予算と前年対比

会計別	歳入歳出予算額		増減率(%)				
	令和5年度	令和4年度					
一般会計	92億6357万円	79億7861万円	16.1				
特別会計	国民健康保険	11億8863万円	12億3766万円	△ 4.0	5224万円 ←		
	後期高齢者医療	7901万円	7856万円	0.6	2385万円 ←		
	介護保険	4億9335万円	4億7698万円	3.4	7728万円 ←		
	浜中診療所	3億4012万円	2億7491万円	23.7	1億6353万円 ←		
合計	113億6468万円	100億4672万円	13.1	3億1690万円 ←			
企業会計 (企業会計とは、民間企業と同じような経理を行う会計です。)							
	収入	支出	収入	支出	増減率(%)		
水道事業	収益的	1億9175万円	1億9175万円	2億796万円	2億796万円	△ 7.8	
	資本的	2億8729万円	3億3188万円	5822万円	9773万円	239.6	5353万円 ←
※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額4459万円は、過年度分損益勘定留保資金で補てんする。							
下水道事業	収益的	4億521万円	4億521万円	-	-	-	
	資本的	1億1032万円	2億856万円	-	-	-	2億3219万円 ←
※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額9824万円は、当年度分損益勘定留保資金で補てんする。 ※地方公営企業法適用初年度のため、令和5年度の欄のみ記載							



# 予算審議から

## 地域おこし協力隊増員の考えは



湿原センターを拠点に活動している協力隊員

**問** 地域おこし協力隊に要する経費859万円は、現在活動している2人の隊員分であり、報酬などの人件費は国が負担する事業である。管内他町村では5〜6人を募集し起業や定住に結び付けている。募集する業務内容を町の業務に限定せず、産業団体やNPO団体での活動も募集メニューに加えることで、隊員の選択肢も広がり増員が期待できる。

各団体への意向調査を実施する考えは。

**答** 来年度の募集に向け、役場全課で協力隊の募集メニューを検討している。現在いる1人は、湿原センターを中心に活動していることから民間団体の意向を聞き取り、町の施策と合致するような業務内容であることなどを踏まえ協議していく。

周知方法は広報誌やホームページなどを考えている。

**問** 改修工事費7610万円の内容と工期および期間中の対応は。

**答** 長寿命化計画に基づく改修で工事内容は外壁の塗装・屋上防水・外部建具交換・トイレ改修などで工期は4カ月程度を予定。外部改修が主なので衛生センターの稼働を止めずに工事ができる。

## 衛生センター改修工事の内容は



老朽化が目立つ衛生センター

## 浜中福社会補助の内容は



「ハイツ・野いちご」の職員住宅

**問** 福祉会補助3878万円は法人の運営、職員住宅建設の補助であるがその内容は。  
また、最近の施設入所者の状況とショートステイへの対応は。

**答** この施設を今後も維持していく上で法人の経営安定が最も重要であると考えている。今回、前年対比増の内容は令和3年度決算時において取り崩した基金538万円を補填。

職員住宅建設に要した費用

用4290万円のうち見込まれる家賃収入2208万円を除く2082万円を今後10年間補助するもので5年度分を計上。

施設入所者は、令和4年度末には49人を予定しており一定の改善が図られている。また、ショートステイの現状はコロナ過に加えて男女の比率もあり一日平均3〜4人で月平均延べ54人程度となっている。今後もある限りの受け入れ態勢を取っていく。

## 農業後継者対策協議会の現状は

**問** 農業後継者対策事業補助120万円は町と農協が同額拠出して行なうものがあるが、近年思うような事業展開ができていない。また、時代の変化に合わせた新たな方策も含め検討が必要と考えるが、さらには、農業に限らず漁業・商工業も含めて取り組むべきではないか。

**答** コロナ禍によりイベントなどは、ここ数年全て中止となっている。昨年末になってコロナの収束が少し見えてくる中、2件のイベントが開催されたがまだ成果には繋がっていない。現在、町・協議会に加え、新たに企画会社を含めて進めている。

その中で、事業の見える化を図るとともに管内の各農協とも連携強化や情報発信のあり方などを検討している。

漁業などの後継者対策に組合が予算を拠出して取り組むことは難しいとのことから、意向調査などを含め今後の課題と考える。

## 海産干場の粉じん対策は

**問** 港湾物揚場路面補修工事166万円の内容と補修時期は。

**答** 夏場の昆布漁最盛期に粉じんが舞ってしまっている、昆布干しや物揚場の作業で昆布に埃が付着してしまいうことから、衛生面の対策としての道路舗装である。

潮路橋北側の全長170m、幅4m、厚さ0.1mを棹前昆布漁が始まる6月上旬までに簡易舗装する。



粉じん対策が施される臨港道路



## ふるさと納税返礼品の 新たな取り組みは



新メニュー 渚の乗馬体験

**問** 5年度当初予算のふるさと納税は11億円を見込んでいるが、前年度実績と寄附額が増えた要因は。

**答** 2月末までの実績は、6万1729件の10億1173万円の前年比30%程度の増である。

また、体験・宿泊型旅行を返礼品に加え、新たな取り組みは。

70品目になり、海産物の需要が伸びたことに加え、主力のハーゲンダッツも約144%と伸びている。今後も、魅力的な返礼品の開発やサイトの掲載方法なども事業者と協議していく。

旅行需要の増からも返礼品としてのアクティビティは可能性があり、カヌー・カヤックや乗馬体験などのメニューを新年度からスタートさせる。ただ、求められる旅行形態は、体験・観光・宿泊・食がセットとなったものが多く、現在セットメニューの提供を事業者が検討中である。

また、首都圏納税者を対象に「ふるさとレストラン」として浜中産食材を使用した食事を返礼品に加えるべく「横浜みなどみらい」にある高梨ミルクレストランで協議されている。

ただ、ふるさと納税は、単に自主財源の確保が目的ではなく、農漁業の生産活動の強化と交流関係人口の増加による地域活性化が大きな目的と考えている。

## 公の集会施設改修工事の内容は



塗装工事が施されるコミセン

**問** 工事請負費1900万円が改修される施設名と内容は。

**答** 円朱別会館の屋上防水改修工事で1170万円。報告されている4～9月までの利用状況は、総会などの会議で5回、調理室で

の活動が7回の計12回。もう1件は、霧多布中央地区コミュニティセンターの外壁・屋根の塗装などで730万円。

4～9月の利用状況は、葬儀で2回、サークル活動で2回、民間業者への貸し出しで8回の計12回。

## 湿原センターの修繕は



補修されるバードカービング

**問** 霧多布湿原センター修繕費107万円の内容と管理運営負担金219万円増額の要因は。

**答** 修繕の内容は授乳室に火災報知器と誘導灯の設置で33万円。施設内に展示しているバードカービングの修繕に21万円。2階カフェの排煙システム4基分の修繕に53万円。

湿原センター指定管理料の増額は電気料金の高騰によるもの。

## 母子保健検診予算の増額は

**問** 昨年度まで、日本赤十字病院とマタニティアイに委託していた各種母子検診と産前・産後ケアの委託料が約30万円増額となった。また、妊産婦通院交通費などへの助成額が前年比139万円の大増額となったがその要因は。

**答** 各種健診委託料は前年同額であるが、産前・産後ケア利用料の自己負担を無くして全額町負担とするた

めの増額。近年、急激に出生数が低下していることから安心して出産・子育てできる環境づくりである。

また、助成金の増額は、不妊治療が健康保険適用となったことから道の助成が打ち切りとなった。

ただ、保険が適用となっても3割が自己負担であり高額なことから、町が自己負担分を助成するための予算で、1人年4回の5人分を予定。

## 新川船揚場工事の内容は

**問** 新川船揚場工事は、右岸導流堤の改修で、上部工約38m、鋼矢板工約36mで今年度で完成するとのことであるが工期は。

**答** 船揚場工事は7年目で今年度工事費7653万円をもって完成となる。工期は9月から3月の予定。



今年度で完成する新川航路





4年度に完成した茶内団地（2棟目）

## 町営住宅整備の内容は

**問** 改修工事  
実施設計委託料760万円  
建物解体工事2210万円  
新築工事2億6800万円  
の内容は。

**答** 昭和63年築茶内団地の改修に向けた設計委託料と耐力度調査と実施設計、アスベスト調査で、5月下旬から12月下旬の7カ月程度で実施をし、来年度の予算に反映させている。  
解体工事は、昭和47年築の茶内B団地3棟の解体で、令和5年8月から10月下旬までの3カ月を予定している。  
新築工事は茶内団地1棟8戸の建設で本年が3棟目となる。

## その他の主な歳出（一般会計）

歳出の内訳	金額
じん芥処理委託料	8110万円
茶内1条通局部改良工事	8000万円
除雪車両購入(除雪専用トラック)	6440万円

## 補正予算を議決

一般会計は、除雪業務委託料6000万円の追加や年度末における事業費の確定に伴う減額などで予算総額を86億8270万円とした。

### ◎特別会計

- ・ 国民健康保険特別会計
- ・ 後期高齢者医療特別会計
- ・ 介護保険特別会計
- ・ 浜中診療所特別会計
- ・ 下水道事業特別会計

### ◎企業会計

- ・ 水道事業会計

特別会計、企業会計ともに令和4年度実績見込みに基づく補正。

## 条例の改正を議決

□ 議会議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正

議員のなり手不足が全国的に叫ばれる中、その要因には議員報酬の水準が低いことが指摘されている。

議員に立候補しやすい環境整備を行い、多様な人材、特に若い世代を議会に送り出すことが必要であることから、議員報酬を令和5年5月支給分から、月額1万8600円引き上げ20万4600円とする。また、議長、副議長、各常任委員長および議会運営委員長も同額の1万8600円引き上げそれぞれ議長31万3600円、副議長25万4600円、各常任委員長および議会運営委員長22万8600円とする改正を可決した。



# 委員会レポート

## 浜中町の新しい学校づくりに向けて 適正規模・適正配置の検討を開始する

今後の学校教育環境のあり方について、2年間にわたり調査を実施し、3月定例会で報告。

### 社会文教 常任委員会

#### ○学校教育環境のあり方について

##### ◆調査の概要

霧多布中学校校舎の老朽化を見据え、今後の学校教育環境のあり方について、当委員会でも一定の結論を見出すべく、令和3年度から多方面にわたり調査検討をしてきた。

令和3年10月には白糠町、斜里町を訪問し、「小中一貫教育」を含む学校教育環境のあり方について視察調査を実施した。これを踏まえ、当委員会は「小中一貫教育」に着目し、本年度は執行機関である教育委員会並びに教育委員との意見交換などさまざまな面から調査を実施した。

##### ◆調査意見

当委員会では、今後の学

校教育環境のあり方について、この2年間多方面から調査検討を重ねてきた。以下、それぞれの項目についての調査意見を述べ、一定の結論とする。

#### ①学校規模の維持並びに教育内容の充実について

少子高齢化に伴い児童生徒数の減少から統廃合が行われ、現在は4地区にそれぞれ小・中学校が配置されている。今後さらに統廃合が進むことで地域コミュニティの衰退も懸念される。学校の統廃合については、現在の学校規模を維持することが望ましいと考えられるが、検討に当たっては保護者や地域の声を十分に聞いた上で慎重に進めるべきと考える。

#### ②学校の施設整備について

現在の霧多布中学校の校

舎は築45年以上経過しており、学校施設の老朽化対策は大きな課題となっている。今後の学校の統廃合も含め、時間を要するものがあるが、早急に着手する必要がある。

#### ③新しい学校づくりに向けた適正規模・適正配置の検討について

学校の適正規模・適正配置の検討は、児童生徒の教育環境をより良くする目的で行うべきものであり、学校統合を行うか、今ある学校を残しつつ、小規模校の良さを生かした学校づくりを行うか、「小中一貫教育」制度を導入するか、「義務教育学校」を設置するかなど、活力ある学校づくりをどのように推進するかは、地域の実情に応じた細かな検証が必要になる。

今後、教育委員会において、浜中町の新しい学校づくりに向けて「浜中町学校適正規模・適正配置

検討委員会」が設置され、令和5年度より学校適正配置基本計画の策定を取り進めていくこととなるが、策定にあたっては保護者の声・地域の声を反映させることはもちろんのこと、何よりも子どもたちにとってより良い教育環境にしていくことを強く望むとともに、保護者・地域住民・教職員・児童生徒など、学校づくりに関わるすべての人々が希望を持てるような新しい学校づくりを期待する。



斜里町での視察調査

# 議会報告と町民との意見交換会

## 主管:広報公聴常任委員会

### 各産業団体青年部と意見交換会を実施

広報公聴常任委員会では

議会活動の状況などの説明責任を果たすとともに、住民と議会との意思疎通を図り、住民の意見を聴き議会運営に資することを目的に「議会報告と町民との意見交換会」を企画しました。その第1回目として各産業団体青年部を対象に意見交換会を実施しました。概要を以下に掲載します。

#### ◆主な意見交換内容

##### テーマA

- ①この町に欲しいものは
- ②議会の定数削減に対しては
- ③議会に関心はあるか



#### ◆開催日

令和5年2月8日(水)

#### ◆開催場所

浜中町役場3階会議室

#### ◆出席者

浜中漁協青壮年部6名  
散布漁協青年部4名  
浜中町農協青年部3名  
浜中町商工会青年部3名  
浜中町議会議員11名

##### テーマB

- ①産業の現状認識
- ②目指すべき姿・課題
- ③課題達成に向けての施策



#### ◆実施内容

- ①議会報告(議会概要報告、各委員会活動報告)
  - ②意見交換(3つのテーマに分かれ少人数での意見交換)
- テーマA「議会と町民の役割について」  
テーマB「産業振興について」  
テーマC「人口減少社会に向けて」

##### テーマC

- ①後継者就業交付金に関して
- ②婚活支援に関して
- ③移住定住支援事業に関して



当日ご参加いただきました各産業団体青年部の皆様には、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。いただきましたご意見は、議員全員で共有し今後の議会活動に活かしてまいります。参加者からの感想として、また次回このような機会があれば参加したいという声が多くあり、年に1回は開催して欲しいという声もありました。

意見交換会の詳細については、町ホームページに掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

浜中町議会では、議会活動の報告と意見交換をする団体・グループを随時募集しています。意見交換会を希望する場合は、議会事務局までお申込みください。

#### 申し込み先

浜中町議会事務局  
TEL : 62-2265  
FAX : 62-2116



# 一般質問

田甫 哲朗 議員



## 問 バイオガスプラント 事業の推進を

## 答 ゼロカーボンの町を 民間との協働で

**町長** 先進地視察を含め、4月中に設立予定の町および民間団体や有識者で組織する「バイオマス推進協議会」を中心に進める。

**田甫** この事業は、単なる農業施策ではないことから酪農家にとっての費用対効果を示し参画してもらうことが必要不可欠であるが。

**町長** 100頭規模の農場では、現在より年間42万円ほど経費が増えるが、消化液の散布により臭気の軽減や雑草種子の死滅が図られ、良質な粗飼料の収穫が見込まれる。穀物飼料を減らせる効果も期待できる。

酪農家への説明会は5〜6月中旬を予定している。

**田甫** FIT期間内(20年)の売電収入で建設費の返済を終える計画であるが、その後の運営収支を試算することも必要では。

**町長** 参画する農家戸数が決定した後に、改めて事業収支計画を作成する。20年後の試算も委託業者と協議して計画に反映したい。

**田甫** 予定では、令和9年度本格稼働・売電開始であるが、余剰熱などを活用した新たな事業の創出は。

**町長** 先進事例では、余剰熱を利用したフルーツ栽培が実施されている。視察などを行い浜中町に適した活用を協議していく。また、20年後の電力は、設立予定の地域電力会社を通じて公

共施設を手始めに家庭への販売を考えている。将来的には、水素やメタンノールの生成事業も目指したい。

**田甫** 50億円規模の大型事業であり新たな可能性を秘めた事業でもある。成功させるには、町の熱意が最も重要と考えるが。

**町長** ゼロカーボンの町に向けた第一歩であり、食糧生産基地として酪農業の発展にも寄与する事業と捉えている。成功に向けてしっかりと取り組んで行く。

### 浜中町バイオマス産業都市構想



北海道浜中町

令和4年9月

# 一般質問

川村 義春 議員



**川村** 任期中に検討課題とした項目の対応を伺う。

① 町営バスの湯沸地区への運行は。

**町長** 町の諮問機関で協議したが、運行時間やバスの台数確保が難しいので70歳以上の高齢者に助成のバス券5千円を1万円に倍増し対応したい。公正を期すため、全高齢者に追加助成。

**川村** ② 漁業後継者が意欲

と自信を持ち続けるために養殖ウニの差別化を図る「地理的表示（GI）保護制度」の登録を。

**町長** 令和3年に申請したが、赤潮の発生で中止。本年1月に審査が再開、令和6年8月頃に昆布だけで育てた「浜中養殖ウニ」が登録される見込み。

**川村** ③ ふるさと納税返礼品を扱う事業所などへ町独自の補助を拡充しては。

**町長** 商工振興対策事業補助を活用し、新規事業所も増えている。ふるさと納税は、10億円を超えており、特産品の開発に支援する。

**川村** ④ 景観条例・景観計画の策定は。

**町長** 令和4～5年度で策定。条例施行は令和6年4月とする。

**川村** ⑤ ハマナスロードの防草シート内への植栽は。

**町長** 令和4年度に赤とブルーサルビア200株を植えたが塩害で枯れたことから今年は塩害に強いペコニアとエゾカンゾウを植える。

**川村** ⑥ 職員の副業（昆布干しなど）を認める制度の

創設時期は。

**町長** 職員が積極的に地域活動参加できるように規則をつくり、許可する基準を明確化し、4月から運用開始する。週8時間を越えない範囲内で土・日・祝祭日。町広報で周知する。

**川村** ⑦ 特定空き家の解体助成額の上限50万円を解体費用の実態に合わせて増額すべきでは。

**町長** 住宅などの解体費用は、5割増しの状況にあるので本年度から助成の上限を100万円に倍増する。

**川村** ⑧ 津波緊急事業は計画どおり進むのか。

**町長** 人工高台の造成は、2カ年に延長のほか霧多布高校の校舎を避難場所とする改修工事、

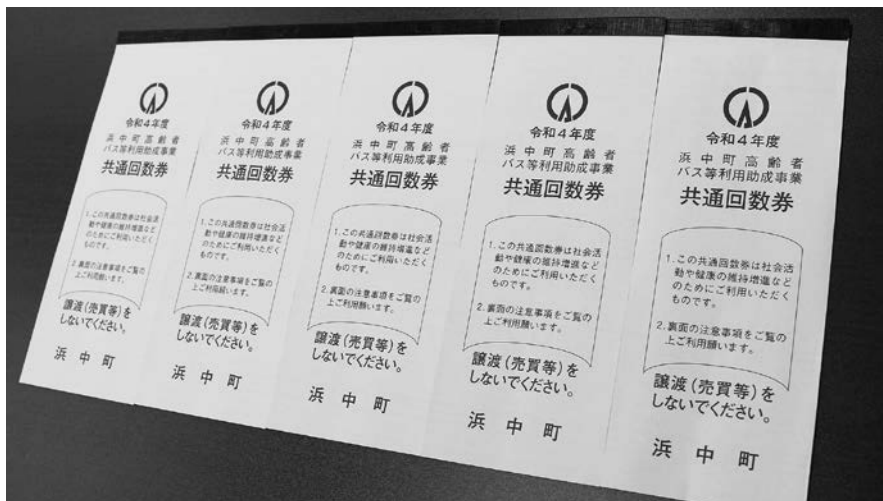
避難タワーの建設4基、救命艇の配備は、計画どおり。

**川村** ⑨ 酪農経営者への町独自の支援策は。

**町長** 国の事業と合わせ搾乳牛1頭当り1400円×1万2786頭分1797万円を町単独補助。（年度内支給。）

## 問 任期中の一般質問で 検討課題とした対応は

## 答 検討項目のすべてに 前向きに答弁



町バス・ハイヤー・ゆうゆで入浴、食事に使えるバス券



# 一般質問

渡部 貴士 議員



## 問 今後の財政状況は

## 答 非常に厳しい

**渡部** 感染症や不安定な国際社会情勢などさまざまな影響により世界的に景気低迷が続く状況の中、来年度の一一般会計予算は前年度比較で16・1%増の92億6300万円で予算編成され、公共施設改修や津波避難施設整備に重点が置かれている。

町政執行方針では具体的な施策が見受けられず、過

去の執行方針では「引き続き厳しい財政状況」と表現されていたものが、「非常に厳しい財政状況」と文言が変わって町財政の深刻度が増したように感じられる。財政の現状と今後の推計は。

**町長** 令和

5年度一般会計予算は前年度比約12億8000万円増で、歳入の約4割は地方交付税に依存している。建築事業では可能な限り地方債を充て、町の振興政策などはふるさと納税基金繰入金を活用している。本庁舎をはじめとした公共施設の維持管理費や人件費、社会保障費の増加などにより、財源不足を解消す



ふるさと納税寄付金は町の行う事業に充当されている

ることができず、補填財源として財政調整基金あるいは公共施設整備基金からの繰り入れをせざるを得ないような非常に厳しい予算編成になった。

総合計画の最終年度となる令和11年度の推計は、実質公債比率が15・1%まで上昇し、将来負担率につい

ては156・1%となるが、財政運営上の制約を受ける水準までは達しないと見込んでいる。

ただし、財源補填の目的で基金の繰り入れを続けると財政難に陥る。また、人口減に伴って交付税が減少することも視野に入れる必要がある。

今後想定される財源不足に備えて、財政規模にあった運営を心掛けたい。

**問** 町民の防災意識の高まりは

**答** 安全に早く避難する方法を協議したい

**渡部** 2月のトルコ・シリア大地震、2月25日の冬期夜間に発生した釧路沖地震(M6・0)を受けて、津波避難地域住民の防災意識の高まりを感じるが、今後の協議の予定は。

**町長** いかに早く避難するか、冬期間でも避難経路を確保することが重要と考えている。町としては、事業計画の内容を重視することとなるが、地域の声を聞くことも大切なので、今後協議したい。

# 端色鮮

霧多布高等学校  
2年A組

福澤 孝哉<sup>たかや</sup>

## 「浜中学」を学んで

霧多布高校に入学して二年が経ちました。入学してから現在までの間、「浜中学」で浜中町について学ぶ中で、まだまだ浜中町について知らないことがたくさんあるということを実感しました。

一年生のときは、一次産業である漁業・酪農、浜中町にある自然についてなど、町民の方から講話をいただいたり、浜中町の食材を使ってピザを作ったりしました。知っていることも知らなかったこともあわせて、とにかく多くの「浜中町に関すること」を学び、知識として得ることができました。

二年生になってからは、一年生で学んだことをもとに、考えを深める力を磨きました。中でも、「デイキャンプ」というテントを張る体験、川釣り体験、焚き火と地元の食材を使っての昼食づくり体験など一日かけて浜中町の自然に触れる企画を行いました。私は川釣りのグループだったため、木の枝から釣り竿を作りましたが、事前準備からとてもワクワクし、デイキャンプ当日も楽しく学ぶことができました。私はキャンプ自体未経験だったので、最初は不安でしたが、意外と手軽に始められることもたくさんあることを知り、数時間だけでも自然と触れ合うきっかけになると感じました。また、霧多布湿原センターから見る湿原と浜中町の街並みがきれいで、浜中町の自然の豊かさを再認識しました。この景色を多くのの人に見てもらおうことが

できればいいなと思っています。

十月に先輩方が行った浜中学報告会に参加してから、デイキャンプの経験も踏まえて「自分たちでツアーを企画したい」と皆で考えるようになりました。現在は九つの班に分かれて、企画の具体化に取り組んでいます。この一年間で、一つのことを掘り下げて考えることができるようになり、またその楽しさも実感しています。三年生の一年間は、「浜中学」の集大成の年になります。私たちの学びも、先輩たちのように成果としてしっかりと報告できるよう頑張ります。

### 揮毫

書道部3年A組  
二ツ森美空さん

### 読み方

ずいしよくせん

### 意味

めでたい光景。



## 町のトピックス

### 浜中町海の恵みまるごとフェア

3月23日撮影

浜中町海の恵みまるごとフェアが札幌市で開催されました。当日は本町の海産物であるカニやホッキなどが販売され、多くのお客さんで賑わいました。



### 町のトピックス(話題)を募集します!

この欄に掲載するまちの季節の写真をお寄せください。次回の発行は令和5年7月15日です。

ご応募はこちらへ 浜中町議会事務局 E-mail: gikai@town.hamanaka.lg.jp TEL: 62-2265